

# 『恐怖の色』

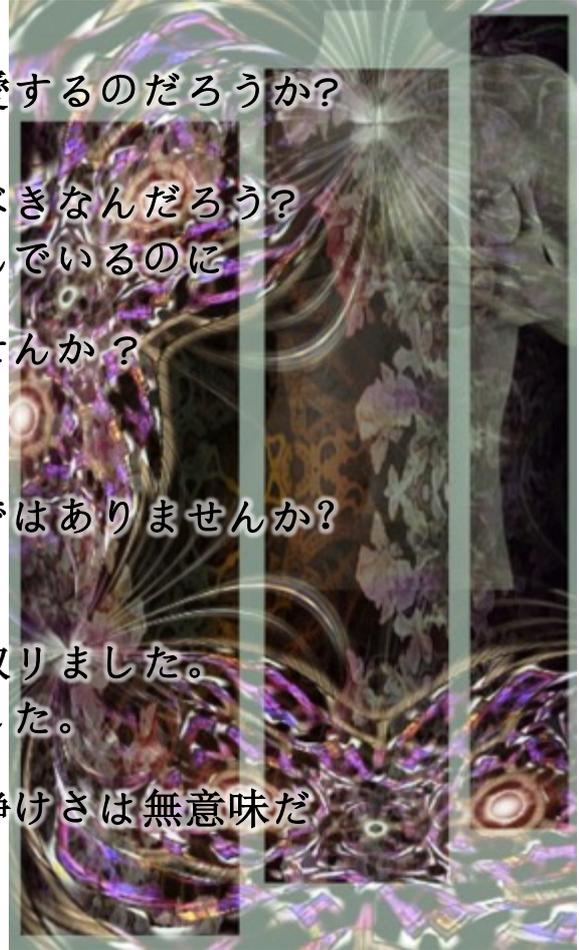
～感情的な閉塞についての考え～

なぜ、人はわざわざ、誰かを愛するのだろうか？  
心を開く価値って、何だろうか？  
私たちはなぜ、他人を信頼すべきなんだろう？  
私たちは、すでに十分、苦しんでいるのに

一人ぼっちは、楽ではありませんか？  
厚い石の層で封印された心  
内なる幸福を見出し、  
精神を落ち着かせる事は賢明ではありませんか？

このような考えで、  
しばしば、私は私の翼を切り取りました。  
そして、親交のドアを閉じました。

禅で無我の境地に達すると、静けさは無意味だ  
それは隻手の声の悟り：  
すばらしく、無意味な平和。



玲亜： この詩は何て女々しいんだろう。

ティム： ああ。恐れのある人は、決して人を愛せないよ。

ティン： 人の愛は常に失望に終わるのになぜ、わざわざ愛するんでしょう？

ティム： あなたの質問は見当違いだよ。失望と苦しみは人生の一部だよ。失望とイライラはただ単に、私達がもっと学ぶ必要がある事を意味しているんだよ。

ミン： タバコを皮肉っぽく、プツと吹く） たぶん、私は学びたくないな。しばしば、無知であることは、幸せに満ち溢れているかのように見えるだろ。

- T Newfields (和訳: 吉田典子)

開始: 2005年静岡市 ♪ 完成: 2016年新北市

